
ぶっころしすと

ウラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぶつこうじすと

【著者名】

Z7985E

【作者名】

ウラ

【あらすじ】

仕事・ぶつこうじ趣味・ぶつこうじ種族・ぶつこうじ

出会い

彼との出会いにはそれはもう最低なもので、良く言えば鍋の横に並べられた和牛、悪く言えば鍋の横に並べられた春菊だった。いずれにせよ、捕食者の餌食になる運命にあるという点においては最低な状況である。

「じんばんは、ぶつじにきましたよ」

私は本を読まない。テレビも観ない。もちろん映画も觀ないし、助平なDVDを観ることなど言語道断である。視覚を必要とするあらゆるメディアとの接触が無いのだ。

そのような清廉潔白純粹無垢な私であっても、このような挨拶が異常であり、必然的に挨拶の主がクルクルパーであるという結論にたどり着く。

「そりなんですか」

我ながら間抜けた返事であつたと思う。しかし、クルクルパーと無縁の生活を営む者にとつて、この状況下で気の効いたリアクションをしうというのは酷な要求であると思う。人間であるにも関わらず「人間より人間らしい」と言わしめる純度100%の人間である私にとつては、六本木を舞台にしてとなりのトトロ実写版を撮れといふくらいに無理な要求である。

「そりなんですよ
お互い様である。

私と彼は、じつじつと出会いつべからずして出会った。断じて必然など

で
は
な
い
。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7985e/>

ぶっころしすと

2011年1月19日22時53分発行